

令和7年度 国分寺東小学校 学校評価アンケート 集計結果・考察について

11月に実施しました学校評価アンケートにおいて、保護者の皆様にはお忙しい中、回答にご協力いただき大変ありがとうございました。集計結果・考察をお知らせ致します。

質問番号	質問項目			集計結果（4点満点）		
	児童	保護者	教職員	児童	保護者	教職員
1	授業は楽しくわかりやすい。	お子さんは、学習した内容が分かっている。	本校の児童は、基礎的・基本的な学力が身に付いている。	3.4	3.2	3.3
2	友だちや先生の話をよく聞いて、協力して学習に取り組んでいる。	お子さんは、話をよく聞き、自分の思いや考えを話すことができる。	本校の児童は、教師や友達の話をよく聞き、協力して学習に取り組むことができる。	3.8	3.1	3.3
3	家庭学習に計画的に取り組んでいる。	お子さんは、時間を決めて家庭学習をする習慣が身に付いている。	本校の児童は、家庭学習に計画的に取り組んでいる。	3.3	2.9	3.2
4	自分のめあてにむかってがんばっている。	お子さんは、自分のめあてにむかってがんばっている。	本校の児童は、自分のめあてにむかってがんばることができる。	3.5	3	3.5
5	朝の読書にしっかりと取り組み、図書室を積極的に利用している。	お子さんは、休日など、読書をしている。	本校の児童は、よい読習慣が身に付いている。	3.2	2.7	3.4
6	「よい子のきまり」を守って生活している。	お子さんは、くつのかかとをつぶさないでいたり、くつやスリッパなどのかかとをきちんとそろえたりしている。	本校の児童は、「よい子のきまり」を守る習慣が身に付いている。	3.4	2.9	3.1
7	早寝、早起き、朝ごはんに取り組んでいる。	お子さんは、早寝、早起き、朝ごはんを心がけている。	本校の児童は、早寝、早起き、朝ごはんの習慣が身に付いている。	3.3	3.3	3.4
8	清掃の時間は、最後までいっしょうけんめい取り組んでいる。	お子さんは、身の回りの整理や掃除を進んでしている。	本校の児童は、清掃活動に進んで取り組んでいる。	3.7	2.5	3.6
9	係活動や当番活動、児童会活動に進んで取り組んでいる。	お子さんは、家庭でのお手伝いを進んでしている。	本校の児童は、係活動や当番活動、委員会活動に進んで取り組んでいる。	3.6	2.9	3.7

10	学校行事にすすんで取り組んでいる。	お子さんは、学校の行事を楽しみにしている。	本校の児童は、学校の行事に進んで取り組んでいる。	3.6	3.6	3.8
11	いつでも、気持ちのよいあいさつをしている。	お子さんは、いつでも気持ちのよいあいさつができる。	本校の児童は、適切なあいさつの習慣が身に付いている。	3.2	3	3
12	先生や目上の人などに正しい言葉づかいができる。	お子さんは、親や目上の人などに正しい言葉遣いができる。	本校の児童は、目上の人に対する正しい言葉遣いができる。	3.4	2.9	2.9
13	自分の健康に気をつけ、病気やけがのない生活を心がけている。	お子さんは、自分の健康に気をつけ、病気やけがのない生活を心がけている。	本校の児童は、健康に気を付け衛生的で安全な生活習慣が身に付いている。	3.6	3.2	3.3
14	交通ルールを守り、安全に登下校している。	お子さんは、交通ルールを守り、安全に登下校している。	本校の児童は、登下校時や放課後、交通ルールを守っている。	3.7	3.5	3.3
15	食事のマナーを守って、好き嫌いなく、決められた時間内に食事をとっている。	お子さんは、食事のマナーを守って、好き嫌いなく食事をしている。	本校の児童は、給食時のマナーを守り、好き嫌いなく、時間を守って食事を取っている。	3.5	2.9	3.3
16	先生は、話を聞いてくれる。	教員は、子どものことについて適切に相談に応じてくれる。	自分は、教育相談はもとより、常日頃から一人一人と話す機会を設け、児童理解を深めたり問題行動に迅速に対応をしたりしている。	3.6	3.6	3.5
17	先生は、自分が努力したことを認めてくれ、がんばるよう励ましてくれる。	教員は、子どもの努力したことを認め、励ましてくれる。	自分は、常日頃から子どもの努力したことを認めたり褒めたりし、今後につながるよう支援している。	3.6	3.6	3.5
18	先生は、人として大切なことを教えてくれる。	教員は、人として大切なことを教えてくれる。	自分は、将来のことを見据えた話題や人として大切なことを子どもたちに対し指導している。	3.7	3.5	3.5
19	家の人に学校のことを話している。	お子さんは、学校の出来事をよく話してくれる。	自分は、子どものよさを積極的に認め、児童との信頼関係を築けている。	3.3	3.4	3.3
20	学校へ行くのが楽しい。	お子さんは、学校に楽しく通っている。	本校の児童は、学校に楽しく通っている。	3.4	3.5	3.3

21	小学生と中学生と一緒に活動したり、学習したりすることは楽しい。	学校は小中一貫教育を推進している。(小中連携活動や学び合いなど)	本校は、小中一貫教育を推進している。(小中連携や学び合いなど)	3.4	3.2	3.5
22	地域の人たちと一緒に活動したり、教えてもらったりすることは役に立つ。	学校は、地域と連携した教育を行っている。	本校は、地域と連携した教育を行っている。	3.6	3.3	3.7

児童・保護者・職員の回答で2者以上が昨年度の数値と比較し0.1ポイント以上の変化が見られた項目について考察として取り上げました。

質問番号	効果的だった手立て又は改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入を工夫する。(児童が興味・関心をもてるものを選んで) 振り返りを充実させていく。(自己選択):自分がコメントを書く以外にも簡単な適応問題を解くことで授業の内容を振り返っていく。 学習内容が理解しづらい児童が、スモールステップで取り組みながら少しでも「できた」「楽しい」と思える活動を増やしていく。 放課後の職員室で、学習指導に関する話題が共有できるよう、放課後の打合せや会議を効率よく行い、実施時間を短縮する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 児童は、自分達の学習の取り組み方を前向きに、よい結果と捉えている。 教員は、学習の進め方を、児童の実態に合わせ、スモールステップで行い、少しでもできている部分をほめるようにする。 話す聞くの大切なポイントを、低学年では繰り返し指導しているが、中・高学年でも意識する場を設定することも効果的。
7 共通成果指標	<ul style="list-style-type: none"> 多くの児童は、朝ごはんを食べ、学校へ遅れず登校することはできている印象がある。 メディア、習い事等の時間が長い傾向にある。メディアの適切な時間を児童や保護者に啓発していくことが大切。 早寝、睡眠の大切さについて保健日よりでは啓発している。 家庭学習がんばりカードで分かる就寝時間やメディアの時間を、学年だよりにのせるのも有効ではないか。児童の実態を知ること、保護者への啓発になるのではないか。
10 共通成果指標	<ul style="list-style-type: none"> 行事と行事の間が連続して忙しい。ゆっくり過ごすための期間を十分に設け、一つ一つの行事をしっかり消化できるようにしていきたい。 たとえば持久走の練習の時に、走るコースを自分で選ぶというように、自分で選択できる目標があると児童が主体的に活動することにつながるのではないか。
12	<ul style="list-style-type: none"> 先生自身が正しい言葉遣いをする。 まずは、授業中の児童の発言や言葉遣いが正しくできるように、適宜場面を捉えて指導していく。

17	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が努力したことを、一人一人具体的に褒めていきたい。 ・よい行動が見られたときなどは、みんなの前で褒めるようにする。 ・特に良かった児童には、みんなと同じような「まる」を付けるだけではなく、「花丸」を付けるなど、評価していることを伝える工夫をする。
19	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が家の人に話したくなるようなきっかけ、話題を教師が積極的に作る。 ・学年だよりで、保護者に呼びかけ、子どもの話にもっと耳を傾けるようにしてもらう。 ・教職員も、忙しい日々こそ、子どもの様子を見取り、小さなことでも積極的に認めていくことに取り組んでいく。
20	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して学校で過ごせるような環境を教職員が整えることによって、嫌な思いをせずに楽しい気持ちで学校生活を送れるようにする。 ・学習への苦手感から学校へ行きたくないなど行き渋りの様子を見せる児童も一定数いるため、個別の状態に合わせて、学習の定着を図るための工夫（時間の創出）が必要である。 ・19の設問と同様に、家庭で学校の出来事を話すような働きかけ、きっかけ作りをすることで、学校がもっと楽しいと感じられるようになるのではないか。
21	<ul style="list-style-type: none"> ・児童への設問が「楽しい」という聞き方だと、児童にとっては「一緒に遊ぶこと」と解釈して答えているのかもしれない。 ・保護者や教職員は挨拶運動や読み聞かせなどで小中連携が図られていると思っているが、子どもの「楽しさ」にはつながっていないかもしれない。小中連携の場面が楽しかった思いとして子どもたちの中に残るよう工夫していきたい。 ・保護者に対しての設問をかみくだいたような質問を児童にしてもよいのではないかと思う。